

ロマンス諸語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の対照

山村, ひろみ
九州大学 : 特任研究者

<https://hdl.handle.net/2324/7420007>

出版情報 : *Studia romanica*. (58), pp.32-47, 2025. SOCIETAS JAPONICA STUDIORUM ROMANICORUM
バージョン :
権利関係 :



ロマンス諸語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の対照

山村 ひろみ

1. はじめに

本稿は、フランス語（以下、仏語）、スペイン語（以下、西語）、イタリア語（以下、伊語）、ポルトガル語（以下、葡語）、ブラジルポルトガル語（以下、伯語）、ルーマニア語（以下、羅語）の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」を、形式、用法、統語的出現環境の観点から比較対照し、その機能的類似点と相違点を明らかにすることを目的とする¹。以下、本稿の構成は、第 2 節で各言語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の形式、第 3 節で各言語の「未来」の諸用法、第 4 節で各言語の「前未来」の諸用法、第 5 節で各言語の「条件法現在」の諸用法、第 6 節で各言語の「条件法過去」の諸用法、第 7 節では当該の時制形式の出現環境を確認することからなる。そして、最後の第 8 節ではそれまでのまとめをする。なお、各時制の名称は仏語に従う。

2. ロマンス諸語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の形式

2.1. 「未来」

本節では、渡邊・小川 (2017)、渡邊 (2019) に即して各時制の形式を見ていく。まず、「未来」は、羅語以外の言語では、ラテン語の義務を表す迂言形式 “habere+不定詞” の “habere” の直説法現在が不定詞に後置され、総合化された形、すなわち、“ラテン語の不定詞+habere の直説法現在” からなる。羅語以外の言語の「歌う」を意味する動詞の「未来」の活用形を示すと、次のようになる。

仏語：(je) chanterai, (tu) chanteras, (il) chantera, (nous) chanterons, (vous) chanterez, (ils) chanteront

西語：cantaré, cantarás, cantará, cantaremos, cantareís, cantarán

伊語：canterò, canterai, canterà, canteremo, canterete, canteranno

葡語：cantarei, cantarás, cantará, cantaremos, cantareis, cantarão

一方、羅語の「未来」は、(i)ラテン語の「欲する」を意味する *velle* に由来する *vrea* の現在形と不定詞からなる迂言形式、(ii)ラテン語 *habere* に由来する *avea* の現在形と *să* 接続法現在形からなる迂言形式、さらに、この(ii)の *avea* の活用形が簡略された形式がある。これらの「歌う」を意味する活用形は次のとおり。

(i)ラテン語の「欲する」を意味する *velle* に由来する *vrea* の現在形と不定詞からなる迂言形式

¹ 本稿は JSPS 科学研究費補助金基盤研究 (B) 課題番号 JP18H00667「ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト・モダリティ・エビデンシャルティの対照研究」(研究代表者 山村ひろみ) の研究成果の一部である。

voi cânta, vei cânta, va cânta, vom cânta, veți cânta, vor cânta

(ii)ラテン語 *habere* に由来する *avea* の現在形と *să* 接続法現在形からなる迂言形式
am să cânt, ai să cânti, are să cânte, avem să cântăm, aveți să cântați, au să cânte

(ii)' (ii)の *avea* の活用形が簡略された形式

o să cânt, o să cânti, o să cânte, o să cântăm, o să cântați, o să cânte

2.2. 「前未来」

次に「前未来」の形式を見る。ロマンス諸語の「前未来」は「未来」の複合形で“助動詞の未来+過去分詞”からなるが、その助動詞は、仏語と伊語のように過去分詞が非対格動詞か否か、再帰動詞か否かによって異なるものと、西語と葡語のように過去分詞の動詞の如何に拘わらず「持つ」を意味する“*haber*”あるいは“*ter*”になるものに分かれる。一方、羅語は過去分詞の動詞が何であれ“*vrea* の特殊活用+*fi* (コピュラの不定詞)”になる。以上を「歌う」を意味する動詞の活用形で示すと、次のようになる²。

仏語：“*avoir* あるいは *être* の未来+過去分詞”

(j')aurai chanté, (tu) auras chanté, (il) aura chanté, (nous) aurons chanté, (vous) aurez chanté, (ils) auront chanté.

西語：“*haber* の未来+過去分詞”

habré cantado, habrás cantado, habrá cantado, habremos canatado, habréis cantado, habrán cantado

伊語：“*avere* あるいは *essere* の未来+過去分詞”

avrò cantato, avrai cantato, avrà cantato, avremo cantato, avrete cantato, avranno cantato

葡語：“*ter* の未来+過去分詞”

terei cantado, terás cantado, terá cantado, teremos cantado, tereis cantado, terão cantado

羅語：“*vrea* の特殊活用+*fi* (コピュラの不定詞)+過去分詞”

voi fi cântat, vei fi cântat, vom fi cântat, veți fi cântat, vor fi cântat

2.3. 「条件法現在」

「条件法現在」の形式を渡邊 (2019) に従ってまとめ、「歌う」を意味する動詞の活用形を示すと、次のようになる。

仏語・西語・葡語：“ラテン語の不定詞+*habere* の直説法未完了過去”

仏語：(je) chanterais, (tu) chanterais, (il) chanterait, (nous) chanterions, (vous) chanteriez, (ils) chanteraient

² 助動詞として *être*, *essere* を用いる仏語と伊語の「出発する」の前未来の活用は次のとおり。仏語：(je) serai partie[e], (tu) seras parti[e], (il) sera parti, (nous) serons parti[e]s, (vous) serez parti[e]s, ils seront partis, 伊語：sarò partito[a], sarai partito[a], sarà partito[a], saremo partiti[e], sarete partiti[e], saranno partiti[e]

西語：cantaría, cantarías, cantaríais, cantaríamos, cantaríais, cantarían

葡語：cantaria, cantarías, cantaria, cantaríamos, cantaríeis, cantaríam

伊語：“ラテン語の“不定詞+habere の直説法完了過去”

canterei, canteresti, canterebbe, canteremmo, cantereste, canterebbero

羅語：“ラテン語の“habere”に由来する avea の特殊活用と不定詞の迂言形式”

aș cânta, ai cânta, ar cânta, am cânta, ați cânta, ar cânta

ここで注目すべきは、仏語、西語、葡語の「条件法現在」の形式は、「未来」の形式“ラテン語の不定詞+habere の直説法現在”がそのまま過去にシフトした“ラテン語の不定詞+habere の直説法半過去”からなるのに対し、伊語の「条件法現在」はそれとは異なり、「ラテン語の不定詞+habere の直説法完了過去」からなるという点である。なお、羅語の「条件法現在」は、“ラテン語の“habere”に由来する avea の特殊活用と不定詞の迂言形式”からなる³。

2.4. 「条件法過去」

同様に、「条件法過去」の形式を渡邊（2019）に従いまとめ、「歌う」を意味する動詞の活用形を示すと、次のようになる⁴。

仏語：“avoir あるいは être の条件法現在+過去分詞”

(j') aurais chanté, (tu) aurais chanté, (il) aurait chanté, (nous) aurions chanté,
(vous) auriez chanté, (ils) auraient chanté.

西語：“haber の条件法現在+過去分詞”

habría cantado, habrías catado, habría cantado, habríamos cantado,
habríais cantado, habrían cantado

葡語：“ter の条件法現在+過去分詞”

teria cantado, terias cantado, teria cantado, teríamos cantado, teríeis cantado,
teriam cantado

伊語：“avere あるいは essere の条件法現在+過去分詞”

avrei cantato, avresti cantato, avrebbe cantato, avremmo cantato, avreste cantato,
avrebbero cantato

羅語：“avea の特殊活用+fi (コピュラの不定詞)+過去分詞”

³ これは渡邊(2019)の記述に従ったものだが、鈴木信五氏(私信)によれば助動詞部分 avea の由来については、ラテン語の habere に由来するという説とラテン語の volle の直説法未完了過去に由来するという説があり、後者の場合、羅語の「未来」と「条件法現在」の間には形式的並行関係があるということになる。Cf. Pană Dindelegan, Gabriela (ed.) (2016): *The Syntax of Old Romanian*, Oxford, Oxford University Press.

⁴ 助動詞として être, essere を用いる仏語と伊語の「出発する」の条件法過去の活用は次のとおり。仏語：(je) serais parti[e], (tu) serais parti[e], (il) serait parti, (nous) serions parti[e]s, (vous) seriez parti[e]s, ils seraient partis, 伊語：sarei partito[a], saresti partito[a], sarebbe partito[a], saremmo partito[e], sareste partiti[e], sarebbero partiti[e]

aş fi cântat , ai fi cântat, ar fi cântat, am fi cântat, aţi fi cântat , ar fi cântat

以上をまとめると、羅語の「条件法過去」は“avea の特殊活用+fi (コンピュータの不定詞)+過去分詞”となるが、それ以外の「条件法過去」は「条件法現在」の複合形ということになる。しかしながら、複合形の助動詞部分の「条件法現在」の形式には、仏語、西語、葡語のように“ラテン語の不定詞+habere の直説法未完了過去”からなるものと伊語のように“ラテン語の不定詞+habere の直説法完了過去過去”からなる二種類があるという点には注意したい。

3. ロマンズ諸語の「未来」の諸用法

本節では対象6言語の「未来」の諸用法を見る。「未来」の諸用法については、各言語の主要な規範文法書等で指摘されているものを網羅的に取り出した⁵。その結果は表1にまとめられる。

表1：「未来」の諸用法の有無 (✓は当該用法の存在を示す)

用法 \ 言語	仏	西	伊	伯	葡	羅
① 発話時以降に生起する事態	✓	✓	✓	✓	✓	✓
② 発話時における発話者の意志	✓	✓	✓	✓	✓	✓
③ 命令的な意味	✓	✓	✓	✓	✓	✓
④ 警告・脅迫	✓	✓	✓	✓	✓	✓
⑤ 回想的未来	✓		✓	✓	✓	
⑥ 現在形の語調緩和	✓	✓	✓	✓	✓	✓
⑦ 驚き・憤慨・反語		✓		✓	✓	
⑧ 現在の推量	✓	✓	✓	✓	✓	
⑨ 現在の譲歩		✓	✓			✓

3.1. 「未来」の時間的用法

表1によれば、対象6言語に共通に確認されたのは、①発話時以後に生起する事態の表示、②発話時における発話者の意志の表示、③命令的な意味の表示、④警告・脅迫の表示である。このうち①は、当該事態を時間軸上の発話時以後に定位させるという「未来」の基本的時間的機能を示したものである。一方、②③④は、以下の例が示すように、①の機能が特定の主語の人称、また特定の意味を表す動詞句と結びついたものである⁶。

(1) Mañana lloverá en muchas zonas de la Península. (西)

明日は半島の多くの地域で雨が降る。

⁵ 以下、「前未来・条件法現在・条件法過去」の諸用法についても同様の扱いとなる。

⁶ 以下、当該用法の例はそれをもっとも明瞭に示す言語の例をあげる。引用例は参照した当該言語の標準的文法書や注1に示したプロジェクトで用いられたパラレルコーパス中に出現したものである。なお、問題となる時制形式およびその日本語訳は下線で示す。

(2) Nunca olvidaré lo que ocurrió luego. (西)

私はその後起こったことを決して忘れない。

(3) Te disculparás mañana con él. (西)

君は明日彼に謝るんだ。

(4) No abortes, por Dios, es una locura. Te arrepentirás toda la vida. (西)

お願いだから中絶はしないで。それは狂気の沙汰。あんた一生後悔する。

(1)は当該事態が発話時以降に生起することを表す「未来」のもっとも基本的な用法である。(2)は発話者の意志を表す「未来」で、主語は1人称に限られる。一方、(3)は命令と解釈される「未来」で、主語は聞き手を指す人称になる。(4)は警告・脅迫を表す「未来」で、主語の人称のほか、「未来」によって表される動詞句の意味が関係する。

さらに、「未来」の時間的用法には⑤回想的未来と呼ばれるものがある。これは、(5)のように、歴史の文脈の中で語られたばかりの過去の事態から見た未来の事態を示すもので、西語以外の言語に確認された⁷。

(5) Bob Tahri, parti comme un avion, ne put d'ailleurs soutenir le rythme de l'Ethiopian. « Il est vraiment trop fort. C'était du sprint. » dira le Français.

ボブ・ターリ (陸上選手) は飛行機のようにスタートしたものの、エチオピア人のペースにはついていけなかった。「あいつは本当に強い。あれこそスプリントというものだった」とそのフランス人 (ボブ・ターリ) は言うことになる。

3.1. 「未来」のモーダル的用法

次に、発話時と同時的関係にある事態に言及する「未来」、いわゆる「未来」のモーダル的用法を見る。この用法の具体例は、以下のとおりである。

(6) ¿Tendrá usted la amabilidad de levantarse un momento? (西)

ちょっと立っていただけますか。

(7) Pour qui donc a-t-on sonné la cloche des morts? Ah! Mon Dieu, ce sera pour Mme Rousseau.

(仏) だれのために死者の鐘がなったのかしら? あっ、まあ、ルソー夫人のためでしょうね!

(8) ¿Será posible? (西) そんなことってある (=それは可能だろうか) ?

(9) Le parecerá una tontería, pero aquello me salvó de morir. (西)

あなたには馬鹿げたことにみえるでしょうが、あれが私を死から救ってくれたのです。

(6)は「未来」の語調緩和表示の例で、対象6言語すべてに確認された。この用法は、特に、依頼・要求・請願の文で用いられるが、それは同じ内容を「現在」で表したときと比べると丁寧さ、敬意の度合いが増すからである。(7)は「未来」が現在の推量を表す例で、羅語以外のすべてのロマンス語に確認された。なお、この用法には非限界的タイプの述語に特有といった語彙アスペクト的制約がある。一方、「未来」のモーダル的用法

⁷ 「回想的未来」は歴史的現在と同じメカニズムで用いられる歴史的未來とは異なり、例(5)のように過去系列の時制の中で突発的に出現する未来の用法を指す。

のうち対応が分かれたのが(8)の驚き・憤慨・反語の用法と(9)の現在における譲歩を表す用法である。(8)のように、「未来」が話し手の知覚した内容に対する驚きや憤慨を表すのは西語と葡語だけであり、同様に、「未来」が現在の譲歩を示すのも西語、伊語、羅語だけだった。

4. ロマンズ諸語の「前未来」の諸用法

本節ではロマンス諸語の「前未来」の諸用法について見る。表2を見られたい。

表2: 「前未来」の諸用法の有無 (✓は当該用法の存在を示す)

言語 用法	仏	西	伊	伯	葡	羅
① 発話時より後の時点よりも前に起こる未来の事態	✓	✓	✓	✓	✓	✓
② 複合過去に対応する発話時より前の事態についての推量	✓	✓	✓	✓	✓	✓
③ 複合過去で表された諸事態の総括の推量	✓		✓			

4.1. 「前未来」の時間的用法

「前未来」は「未来」の複合形で、その用法もこの形式に即したものとなっている。対象6言語に共通に見られたのは、(10)のように、①発話時より後の時点より前に起こる未来の事態の表示という時間的用法である。

(10) *Suponen que cuando llegue el invierno, habrá terminado la guerra.* (西)

彼らは冬が到来する頃には戦争は終わっているだろうと想定している

(10)の「前未来」は、*cuando llegue el invierno*「冬が到来するとき」が示す発話時以後の時点より前に起こる未来の事態を表している。

4.2. 「前未来」のモーダルの用法

「前未来」のモーダルの用法で対象6言語すべてに確認されたのは、(11)のような、②発話時より前の事態についての推量の表示というものであった。

(11) *J'aurai laissé mes lunettes en haut. Courez vite me les chercher.* (仏)

私は階上に眼鏡を置き忘れてきたようだ。早く探してきてくれないか。

一方、「前未来」のモーダルの用法には、②の変種として、(12)のように複合過去の文脈に出現し、③発話時より前の諸事態の総括の推量を表すものもあるが、これは仏語と伊語にしか確認されなかった。

(12) *Directeur de recherche émérite au CNRS, ce sociologue aura contribué, par ses nombreux livres et ses chroniques sur France Inter, à diffuser une vision moins caricaturale du Japon.*

(仏)

[訃報で] 国立研究センターの名誉教授であったこの社会学者は多数の著書、放送局 France Inter の時評を通して戯画的でない日本への見方を広めることに貢献したことになるだろう。

5. ロマンズ諸語の「条件法現在」の諸用法

本節では対象6言語の「条件法現在」の諸用法を見る。表3を見られたい。

表3:「条件法現在」の諸用法の有無 (✓は当該用法の存在を示す)

言語 用法	仏	西	伊	伯	葡	羅
① 過去から見た未来の事態	✓	✓		✓	✓	
② 文学的な語りの中で、これから実際に起こる未来の事態	✓	✓		✓	✓	
③ 反事実用法	✓	✓	✓	✓	✓	✓
④ 驚き・憤慨・反語用法	✓	✓	✓	✓	✓	✓
⑤ 語調緩和・婉曲の表示	✓	✓	✓	✓	✓	✓
⑥ 文の真実性についての責任回避（現在の伝聞）の表示	✓	✓	✓	✓	✓	✓
⑦ 遊戯の配役・夢想	✓			✓	✓	✓
⑧ 過去の事態の推量 ⁸		✓(単純過去・半過去)		✓(半過去)	✓(単純過去・半過去)	
⑨ 過去の譲歩		✓				
(a)条件願望文						✓
(b)比較(比喩的)						✓
(c)罵詈雑言						✓

5.1. 「条件法現在」の時間的用法

表3に提示された諸用法のうち、①過去から見た未来の事態の表示、②文学的な語りの中で実際に起こる未来の事態の表示は「条件法現在」の時間的用法で、以下に示すようなものである。

(13) Cécile m'a dit que son frère reviendrait de vacances lundi. (仏)

兄は月曜に休暇から戻るとセシルは私に言った。

(14) O Luís comprou uma casa no Alentejo em 1969. No ano seguinte, construiria uma piscina no jardim. (葡)

1969年にルイスはアレンテージョに一軒の家を買った。翌年庭にプールを作ることになる。

⁸ 括弧内は当該「条件法現在」に対応する時制を示す。

(13)の「条件法現在」 *reviendrait* は *Cécile m'a dit* 「セシルは言った」という過去の事態から見た未来の事態、(14)の「条件法現在」 *construiria* は、語りの流れにおいて単純過去で表されうる事態を前文の事態以降に起こるものとして提示したものである。これらの用法のうち、(13)が示すような、過去から見た未来の事態の表示という働きは、先に見た「未来」の発話時以降に生起する事態の表示という働きと並行関係にあるが、この用法、また、(14)が示すような②の用法も伊語と羅語には確認されなかった。これは伊語と羅語の「条件法現在」には時間的用法が存在しないことを示すものであり、両言語の「条件法現在」の特筆すべき特徴と言える。

5.2. 「条件法現在」のモーダルの用法

次に「条件法現在」のモーダルの用法を見る。表3によれば、対象6言語の「条件法現在」に共通に確認されたモーダルの用法には、(15)のような、③現在の事実と反する事態を表す反事実用法、(16)のような、④話し手が知覚した事態への驚き・憤慨の表示、(17)のような、⑤現在で表すことのできる事態の語調緩和・婉曲用法がある。これらの用法の「条件法現在」はいずれも発話時と同時関係にある事態に言及したものである。

(15) *Si tuviera dinero, te prestaría.* (西)

お金を持っていれば、君に貸すのだが。

(16) *Moi, j'aurais massacré ! Serait-il possible?* (仏)

私が虐殺したと！そんなことがあり得ようか？

(17) *Desearía hablar con el doctor.* (西)

先生とお話ししたいのですが。

同じく発話時と同時関係にある事態に言及する「条件法現在」の用法としては、(18)のような、⑥文の真実性についての責任回避（現在の伝聞）の表示もあるが、この用法の規範文法における扱いは言語によって異なる。例えば、仏語の規範文法では同用法は一般的なものと見なされているが、西語の規範文法では、同用法は長い間仏語からの借用と見なされ回避すべきものとして扱われてきたからである⁹。

(18) *Plus de 8300 Irakiens seraient actuellement détenus.*(dans le Monde, 4 avril 2003) (仏)

8300人以上のイラク人が現在拘束されている模様。

さらに、「条件法現在」には、(19)のような、⑦遊戯の配役・夢想を表す用法もあるが、これは仏語、葡語、羅語で確認された。

(19) *Toi, tu serais le voleur et moi, je serais l'agent de police.* (仏) 君は泥棒で、僕は警官だ。

一方、「条件法現在」には、(20)(21)(22)のように、直説法半過去あるいは直説法単純過去に置き換え可能な⑧過去の事態の推量、⑨過去の事態の譲歩を表す用法もあるが、前者は西語と葡語、後者は西語にしか確認されなかった。

⁹ しかしながら、*Nueva gramática de la lengua española* は同用法を「条件法現在」の推量用法の *variante* と見なしている。Cf. RAE/ASALE [en línea], 23.15m.

(20) Tendría entonces treinta años. (西) 彼はそのとき 30 歳だったろう。

(21) -Pero, ¿cómo llegaría el mensaje? (西)

でも、そのメッセージはどうやって届いたのかしら？

(22) Sería muy listo, pero no se le notaba. (西)

彼はとても利口だったのだろうが、そうは見えなかった。

最後に、対象 6 言語のうち羅語にしか確認されなかった「条件法現在」のモーダルの用法、すなわち、(23)条件願望文、(24)比較（比喩）的、(25)罵詈雑言の例をあげておく。

(23) Of! de-ar veni iarna, să te mai dau odată la școală undeva... (羅)

ああ！冬が来てくれたら、あなたをどこかの学校に連れ戻すことができるのに。

(24) Parcă ar fi pictat în sânge. (羅) まるで血で描かれたようだ。

(25) ... mînca-i-ar pămîntul să-i mănânce, doamne iartă-mă! (羅)

大地がやつらを飲み込んでくれればいいのに、神よ許したまえ！

6. ロマンズ諸語の「条件法過去」の諸用法

本節では対象 6 言語の「条件法過去」の諸用法を見る。表 4 を見られたい。

表 4：「条件法過去」の諸用法の有無（✓は当該用法の存在を示す）

用法 \ 言語	仏	西	伊	伯	葡	羅
① 過去のある時点より後の時点より前に起こる事態	✓	✓	✓	✓	✓	✓
② 過去から見た未来の事態			✓			
③ 文学的な語りの中でこれから実際に起こる未来の事態			✓			
④ 反事実用法	✓	✓	✓	✓	✓	✓
⑤ 文の真実性についての責任回避（過去の伝聞）	✓	✓	✓	✓	✓	✓
⑥ 過去の事態の推量 ¹⁰	✓(半過去、複合過去、大過去)	✓(大過去)		✓(単純過去、半過去、大過去)	✓(単純過去・大過去)	✓(複合過去)
⑦ 語調緩和・婉曲・遺憾	✓	✓	✓		✓	✓
⑧ 驚き・憤慨・反語	✓		✓		✓	✓

6.1. 「条件法過去」の時間的用法

表 4 によれば、「条件法過去」の時間的用法には二種類ある。まず、「前未来」が示す「発話時より後の時点より前に起こる未来の事態の表示」という用法 (cf.(10)) がそのまま過去にシフトしたもの、すなわち、(26)のように、①過去のある時点より後の時点よ

¹⁰ 括弧内は当該「条件法過去」に対応する時制を示す。

りに起こる事態を表すという用法で、これは対象 6 言語すべてに見られる。一方、伊語の「条件法過去」には、(27a)のように、「前未来」の用法がそのまま過去にシフトしたと解釈される用法だけでなく、(27b)のように、他のロマンス語では「条件法現在」で表される②過去から見た未来の事態の表示、また、(28)のように、③文学的な語りの中でこれから実際に起こる未来の事態を表すという用法も存在する。これらは、伊語の「条件法過去」は他のロマンス諸語のそれとは異なり、単に過去から見た未来の事態を表すだけの時制であることを示唆するものである。

(26) *Suponían que cuando llegara el invierno, habría terminado la guerra.* (西)

彼らは冬が到来する頃には戦争は終わっているだろうと想定していた。

Cf. (10) *Suponen que cuando llegue el invierno, habrá terminado la guerra.* (西)

彼らは冬が到来する頃には戦争は終わっているだろうと想定している。

(27) a. *Supponevano che prima che venisse l'inverno, sarebbe già finita la guerra.* (伊)

彼らは、冬が到来する前に戦争は終わっているだろうと想定していた。

b. *Ha detto che sarebbe partito domani.* (伊) 彼未来のは明日発つつもりだと言った。

(28) *La mia guida si intitolava: 'India, a travel survival kit', l'avevo acquistata a Londra più per curiosità che per altro [...]. Solo più tardi mi sarei accorto della sua utilità.* (伊)

私のガイドブックのタイトルは *India, a travel survival kit* だったが、私がそれをロンドンで手に入れたのは何よりも好奇心からに過ぎなかった。もっと後になって初めてそれが役立つのに気づくことになる。

この伊語の「条件法過去」の時間的用法の特殊性、また、先に見た伊語の「条件法現在」における時間的用法の不在は何に起因するのだろうか。それは、伊語の「条件法現在・条件法過去」の形式が（羅語を除く）他のロマンス語とは異なっていることに関係するのではないだろうか。

まず、5.1.では、羅語以外の言語の「条件法現在」の時間的用法が「未来」の時間的用法と並行関係にあるのを見たが、これはそれらの言語の「条件法現在」の形式“不定詞+habere の直説法未完了過去”の直説法未完了過去が「未来」の形式“不定詞+habere の直説法現在”の直説法現在との間に機能的並行性があるからだと思われる。それは、例えば、西語において、主動詞が過去形の直接話法中の現在形の従属動詞が間接話法になると半過去に変化することなどに見てとれる。それに対して、伊語の「条件法現在」の形式“不定詞+habere の直説法完了過去”の直説法完了過去と「未来」の形式の一部である直説法現在の間には、そのような機能的並行性はない。筆者は、この機能的並行性の不在が、伊語の「未来」には時間的用法はあるが、「条件法現在」には時間的用法が存在しないという特異な現象を生んだのではないかと考える。同様のことは、「条件法過去」の時間的用法と「前未来」の時間的用法の間にも見られる。仏語、西語、葡語の「条件法過去」の「過去のある時点より後の時点より前に起こる事態の表示」という時間的用法と「前未来」の「発話時より後の時点よりも前に起こる未来の事態の表示」という時間的用法の間には並行関係があるが、伊語の「条件法過去」の「過去から見た未来の事態の表示」

という時間的用法と前述の「前未来」という時間的用法の間にはそのような並行関係は見当たらないからである。

6.2. 「条件法過去」のモーダルの用法

「条件法過去」が示すモーダルの用法は様々であるが、それらが過去の事態に言及するという点において対象6言語は共通している。

まず、対象6言語すべてにおいて確認されたのは、(29)のように、過去の事実とは逆のことを表す④反事実用法、(30)のように、⑤文の真実性に対する責任回避(過去の伝聞)を表す用法である。一方、⑥過去の事態の推量を表す用法は伊語以外の言語に確認されたが、仏語の「条件法過去」の(31)は、西語では(31)'のように「条件法現在」で表される点には注目したい。対して、(32)のような、西語の過去の推量を表す「条件法過去」は、(32)'が示すように、「大過去」で表される事態に対して推量を加えられたものと解釈される。さらに、(33)のような、⑦語調緩和・婉曲・遺憾を表す用法は、伯語を除くロマンス諸語、(34)のような、⑧驚き・憤慨・反語を表す用法は、西語、伯語を除くロマンス諸語に確認された。

(29) Si tu avais mené la moindre enquête à Paris, tu en aurais appris de belles. (仏)

パリでほんの少しでも調査してみれば、そんなことは良く分かっただろうに。

(30) Le tremblement de terre du Pérou. La catastrophe aurait fait trente mille morts. (titre, dans le Monde, 3 juin 1970) (仏) ペルーの地震。震災は3万人もの死者を出した模様。

(31) Elle n'aurait pas grossi, par hasard? insista miss Marple. (仏)

「もしかして彼女は太ってなかったかしら？」とミス・マーブルは強調した。

(31)' ¿No engordaría por casualidad? -insistió la señorita Marple. (西)

「もしかして彼女は太ったりしなかったかしら？」とミス・マーブルは強調した。

(32) Él ya habría vuelto a casa para entonces. (西)

彼はその時までにはもう家に戻っていただろう。

(32)' Él ya había vuelto a casa para entonces. (西) 彼はその時までにはもう家に戻っていた。

(33) J'aurais pu t'aider. (仏) 手助けしてあげられたのに。

(34) Mais pourquoi diable se serait-il suicidé? demanda Raymond West, incrédule. (仏)

「でも、どうして彼が自殺なんかしなきゃいけなかったというんですか？」レイモンド・ウェストが皮肉っぽく尋ねた。

7. ロマンス諸語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の統語的出現環境

本節では、ロマンス諸語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」がどのような統語的環境で出現するのかを、条件節における出現の可否、時を表す節(以下、when節)における出現の可否という観点から見ていく。表5を見られたい。

表5：条件節と when 節での「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の出現の可否¹¹

節	時制	言語					
		仏	西	伊	伯	葡	羅
条件節	未来	[直説法現在]	[直説法現在]	✓	[接続法未来]	[接続法未来]	✓
	前未来	[直説法現在完了]	[直説法現在完了]	✓	[接続法未来完了]	[接続法未来完了]	✓
	条件法現在			✓(anche se)			✓
	条件法過去			✓(anche se)			✓
when 節	未来	✓	[接続法現在]	✓	[接続法未来]	[接続法未来]	✓
	前未来	✓	[接続法現在完了]	✓	[接続法未来完了]	[接続法未来完了]	✓
	条件法現在	✓		✓			✓
	条件法過去	✓		✓			✓

7.1. 条件節における「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の出現状況

表5によれば、条件節と when 節の両方において「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」のすべてが出現可能なのは伊語と羅語である。以下の例を見られたい。

(35) *Se nel Corso delle indagini stabilirete che... la persona... non è assolutamente implicata [...], avrò preso un grosso granchio.* (伊) [未来]

もし捜査が進んで、「この人物」が全く何の関係もないというご判断に至るようなら、私はとんでもないへまを犯してしまったことになるでしょうね。

(36) *Ti darò un premio, se avrà giocato bene anche la prossima partita.* (伊) [前未来]

もし次の試合もうまくプレーしたなら、お前に褒美をやろう。

(37) *Anche se sarebbe giusto fare una pausa, continuiamo!* (伊) [条件法現在]

休憩しても悪くないだろうけど、継続しよう!

(38) *Dacă aș pleca de dimineață, aș ajunge la timp.* (羅) [条件法現在] 朝出れば、間に合う。

(39) *Sono uscita, anche se avrei voluto chiudermi dentro.* (伊) [条件法過去]

中に閉じこもっていたかっただにしろ、私は外出した。

(40) *Dacă ar fi vrut, pe toate le putea coborî acolo la cuțit.* (羅) [条件法過去]

その気になれば、全員をナイフで刺すこともできたはずだ。

(35)(36)のように、条件節に出現可能な伊語、羅語の「未来・前未来」に対して、仏語、

¹¹ ✓は当該時制が当該節において出現可能なこと、[]は当該時制に代わって出現する時制・法を示す。伊語の(anche se)は当該時制がこの組み合わせの節において出現することを示す。なお、空欄は当該時制に代わって出現可能な時制や表現がはっきり決められないことを示す。

西語は、(35)′(36)′のように、「直説法現在・直説法現在完了」、葡語は、(35)″(36)″のように、「接続法未来・接続法未来完了」が対応する。

(35)′ Luego, si durante el transcurso de la investigación usted decide que esa persona no tiene nada que ver, pues me habré equivocado. (西) [直説法現在]

もし捜査が進んで、「この人物」が全く何の関係もないというご判断に至るようなら、...

(35)″ Se, no decurso da investigação, decidir que... a pessoa não está de forma alguma envolvida no caso... (葡) [接続法未来] 同上

(36)′ Si no he vuelto mañana por la mañana, le dices a Rosa que te haga el desayuno. (西) [直説法現在完了]

私が明日の午前中に戻っていないなら、ロサに朝食を作ってくれるよう言うのよ。

(36)″ Se eu não tiver voltado amanhã de manhã, diga a Rosa para que prepare o café da manhã. (葡) [接続法未来完了]

私が明日の午前中に戻っていないなら、ロサに朝食を作ってくれるよう言ってください。

一方、条件節に「条件法現在・条件法過去」が出現可能なのも伊語と羅語であるが、他のロマンス語においてこれらの形式がどのような時制あるいは表現に対応するかを一義的に決めるのは難しい。なお、表5の伊語の「条件法現在・条件法過去」は *anche se* と共に出現しているが、この *anche se* は条件節というよりは事実の譲歩を表す節と言われている。

7.2. when 節における「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の出現状況

表5によれば、when 節において「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の出現が可能なのは仏語、伊語、羅語である。以下の例を見られたい。

(37) Quand tu seras propriétaire et que tu auras ton propre jardin, tu n'ignoreras plus ces petites choses-là. (仏) [未来]

自分の家庭と自分の庭師を持つようになったら、あなたにもこうしたことがいろいろわかるようになる。

(37)′ Cuando tengas tu propia casa, querido, y un jardinero que cuide de tu jardín, conocerás estos pequeños detalles. (西) [接続法現在] 同上

Quando tiveres uma casa, querido, e possuíres um jardim próprio, vais saber estas pequenas coisas. (葡) [接続法未来] 同上

(38) Quando lo avrai visto, te ne renderai conto. (伊) [前未来]

それを見たら、君は納得することだろう。

(38)′ Cuando hayas terminado de leer el libro, préstamelo. (西) [接続法現在完了]

その本を読み終わったら、私に貸して。

Quando tiver terminado de ler o livro, empresta para mim. (葡) [接続法未来完了]

その本を読み終わったら、私に貸して。

(37)′(38)′が示すように、仏語、伊語の when 節の「未来・前未来」は、西語では「接続

法現在・接続法現在完了」、葡語では「接続法未来・接続法未来完了」に対応する。

一方、**when** 節の「条件法現在・条件法過去」に対応する時制は、条件節の「条件法現在・条件法過去」と同様に一義的には決まらない。以下の例を見られたい。

(39) Et quand on me convoquerait à la police, rien de plus facile que ... (仏) [条件法現在]

警察に呼ばれたとしても、...よりたやすいことはないだろう。

(39)' Cuando me enviarán a comisaría sería lo más sencillo del mundo... (西) [接続法過去] 同上

(40) Quand l'univers l'écraserait, l'homme serait encore plus noble... (仏) [条件法現在]

宇宙が人間を押しつぶすことがあるとしても、人間は...よりもはるかに気高いものであろう。

(40)' Aunque el universe aplastara al hombre, sería más noble que... (西) [接続法過去] 同上

(41) (...), il avait promis à Gladys de l'épouser quand elle serait morte. (仏) [条件法過去]

彼はグラディスに妻が死んだら結婚すると約束した。

(41)' y prometió a Gladys casarse con ella cuando su mujer muriese. (西) [接続法過去] 同上

(39)の仏語の「条件法現在」は、(39)'が示すように、西語の「接続法過去」、(40)の譲歩的「条件法現在」は、(40)'が示すように、西語の譲歩の接続詞 **aunque** と「接続法過去」によって表される。一方、**when** 節に出現した仏語の「条件法過去」も、(41)'が示すように、西語では「接続法過去」で表されている。つまり、**when** 節に出現した仏語の「条件法現在・条件法過去」はいずれも西語の「接続法過去」に対応するのである。

8. まとめ

以上、ロマンス諸語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の機能的類似性と相違性を形式、用法、出現環境という観点から見てきた。その結果は、次のようにまとめられる。

まず、対象とする6つのロマンス語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」は、その諸用法に基づく機能的観点から大きく「未来・前未来」と「条件法現在・条件法過去」に分けられる。

「未来」については、対象6言語すべてにおいて、発話時以降に生起する事態を表示するということが確認された。また、それらすべてにおいて、発話時以降に生起する事態の主語の人称、その内容などに従って、発話者の発話時における意思、命令的な意味、警告・脅迫的な意味が表されることも確認された。これは、対象6言語の「未来」が「事態を発話時以降に定位する」という時間的機能を共有することを示すものである。一方、「未来」が発話時と同時関係にある事態を示すそのモーダルの用法に関しては、語調緩和はすべての言語の「未来」に共通に確認されたが、現在の推量については、確認された言語と確認されなかった言語があり、現在の譲歩については西語、伊語、羅語に見られるだけだった。このことから、対象6言語の「未来」をモーダルの観点から統一的にまとめることは難しいと言える。それに対し、「前未来」の機能については、当該形式が「未来」の複合形であることに沿ったものとなる。すなわち、対象6言語の「前未来」はすべて発話時より後の時点よりも前に起こる未来の事態を表すが、これはそれらの「未

来」が発話時以降に生起する事態を表すという働き、また、同様に、対象6言語の「前未来」が発話時より前の事態についての推量を表すというのは、それらの「未来」が現在の推量を表すという働きに並行したものである。

一方、「条件法現在・条件法過去」については、対象とする6つのロマンス語に共通の機能を設定することは難しい。2.3.、2.4.で見たように、「条件法現在・条件法過去」の形式については、「未来・前未来」の形式の一部が過去にシフトしたものと見なせる言語とそうでない言語があり、それが当該形式の機能にまで影響を与えていると思われるからである。

まず、「条件法現在・条件法過去」の形式が「未来・前未来」の形式を過去にシフトしたものと見なせる言語から見ると、その「条件法現在・条件法過去」の時間的用法は「未来・前未来」のそれと並行関係にある。しかし、そのモーダルの用法については、必ずしも「未来・前未来」のそれと並行関係にあるとは言えない。例えば、西語、葡語の「条件法現在」は、「未来」が現在の推量を表すのと並行して過去の事態の推量を表すが、仏語の「条件法現在」が「未来」のモーダルの用法と並行して過去の事態の推量を表すことはないからである。このことに基づくならば、西語、葡語の「条件法現在」は時間的用法のみならず、そのモーダルの用法の振る舞いからも「未来」が過去にシフトしたものと見なすことができるが、仏語の「条件法現在」は、少なくともそのモーダルの用法からは、「未来」が過去にシフトしたものとは見なすことはできないということになる。

一方、伊語のように、「条件法現在・条件法過去」が「未来・前未来」の形式を過去にシフトしたものではない場合、その時間的用法も「未来・前未来」のそれと並行したものにはならない。しかし、そのモーダルの用法を見ると、「条件法現在」は発話時と同時関係にある事態に言及し、「条件法過去」は過去の事態に言及するというように、「条件法現在・条件法過去」の形式が「未来・前未来」の形式を過去にシフトしたものである言語と同じ様相を見せる。このことを踏まえ対象6言語に共通の「条件法現在・条件法過去」の特徴を示すと、「条件法現在」のモーダルの用法は発話時と同時関係にある事態に言及し、「条件法過去」のモーダルの用法は過去の事態に言及することになる。以上のことをまとめるならば、本研究が対象とする6つのロマンス語は、「未来・前未来」においてはその時間的機能を共有し、「条件法現在・条件法過去」においてはそのモーダルの機能を共有するということになる。

最後に、対象6言語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」を出現環境という観点から見ると、それには一貫性がある。すなわち、条件節あるいはwhen節で「未来」が出現できれば、「前未来・条件法現在・条件法過去」のいずれも条件節あるいはwhen節で出現できるのである。このような「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の統語的振る舞いは、それらの時制と当該ロマンス語における接続法の機能的活性度と関係しているように見える。というのも、西語、葡語のように、条件節、when節で「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」が容認されない言語では、それらの代わりに接続法が使われていることが確認されたからである。

参考文献

渡邊淳也・小川紋奈(2017) : 「仏語の単純未来形・前未来形とロマンス諸語における対照研究」渡邊淳也・和田尚明(編)『諸言語における TAME の発現と認知モード』, pp.1-23.

渡邊淳也(2019) : 「仏語の条件法現在・条件法過去形とロマンス諸語における対応形式の対照研究」『筑波大学仏語・フランス文学論集』 34, pp. 57-90.

RAE/ASALE: *Nueva gramática de la lengua española* [en línea], <https://www.rae.es/gramática/>. [最終閲覧日: 17/09/2024].

準拠した主な文法書・研究書

仏語

Grevisse, M.(1969) : *Le Bon Usage*, 9ème édition, Duculot.

Grevisse, M. Et A. Goosse, (2016) : *Le Bon Usage*, 16ème édition, Duculot.

西語

Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española (2009): *Nueva gramática de la lengua española*, Madrid: Espasa-Calpe.

伊語

Serianni, L. (1991): (con la collaborazione di A. Castelveccchi), *Grammatica italiana: italiano comune e lingua letteraria*, 2a ed. Torino : UTET [orig. 1988].

葡語

Cunha, C.; Cintra, L. F. L. (2005) : *Nova gramática do português contemporâneo*, 18ª ed. Lisboa: Edições João Sá da Costa.

羅語

Academia Română (2016) : *Gramatica de baza a limbii romane*, București: Univers Enciclopedic Gold.

(最終原稿受理日 2025 年 8 月 3 日) (やまむら ひろみ / 九州大学特任研究者)